

ひとの
ちから

CLOSE UP



まつなが・げんろくろう 昭和23年生まれ、大和区在住。荒尾地区保護司。日本刀に親しんでもらおうと「古武道小岱流斬試道」を立ち上げ国内外に門下生をもつ。工房の見学や作刀体験も行っている。

松永日本刀鍛錬所 刀匠
松永源六郎さん

荒尾市に日本刀を造ることを本職とする「刀匠」と呼ばれる人がいます。その人は松永日本刀鍛錬所を開いている松永源六郎さんです。

松永さんが刀に魅入られたのは、小さい頃に地金を見て「同じ鉄なのに、汚れた地金と、顔が映るほど美しい刀の違いは何だろう」と、疑問を覚えたことが始まりだそうです。25歳の時、刀鍛冶の家を訪ねた松永さんは、目の前で美しい刀が作られていく様子に強烈な衝撃を受けます。「これを作ってみたい」と、胸が熱くなった松永さんは、次の日にはもう刀鍛冶の世界に飛び込んでいったそうです。

松永さんは、これまで日本刀づくりに携わる中で、日本の歴史や文化、伝統の素晴らしさを知り、大切に継承しています。刀に使用する鉄は、世界で最も高価で高純度の鉄を生み出す日本独自の伝統技法「たたら製鉄」で作られます。松永さんも、この技法で作った鉄で刀を手掛けています。また、国宝に指定された名刀などを模造することから

技術を学び、武士の生き様に、仁・義・礼・智・信の5つの徳を教わります。「今は昔の続きです」松永さんは、日本文化の素晴らしさを知り、誇りを持って継承していくことが大切だと話します。

松永さんの鍛錬所では、作刀体験や試し斬りなど、刀を通して日本文化の魅力を感じられるような体験を行っています。毎年国内外から多くの人が訪れるそうです。

「最近では日本文化と触れ合うきっかけが減り、日本人の古き良き精神が引き継がれることが少なくなると感じます」と、松永さんは寂しそうな顔をします。ぜひ見学に来て、日本文化の魅力に触れてほしい、日本人のアイデンティティを忘れず、足元にある歴史・文化を覚えてほしいと、松永さんは言います。

「荒尾に、日本に、誇りを持ってほしい」―松永日本刀鍛錬所は、日本の文化や歴史を知ることができる場所です。松永さんは日本人としての誇りを胸に、今日も刀を打ち込みます。